

佐潟のハスの現状について

1 概要

昨年から佐潟下潟のハスの減少が著しく、今年に関しては、ほぼ見られない。御手洗潟のハスも今年は少なく、原因の特定が望まれている。

2 原因の予測と対策

ハス減少の原因は、複数の要因が関わっている可能性があり特定は難しいかもしれないが、ハスだけでなく今後の佐潟の環境を保全していくうえで必要な要因が多いと考えられるため、影響を調査し、総合的な対策が必要と考えられる。

(1) 水質の悪化

近年、アオコの発生が著しく、出現時期早い（4月下旬頃から発生）ことから、ハスの発芽が阻害される他、水の著しい富栄養化による生育悪化が懸念される。水質の上潟や御手洗潟、その他の湿地との比較やこれまでの変化などを調査すると共にハスの生育に求められる水質の確認を行う。

(2) 外来生物による影響

ミシシippアカミミガメ、ミドリガメなど、カメがハスの新芽を食害するという報告がある。ただし、どの程度影響を与えているかは調査が必要で、御手洗潟や上潟での食害調査や下潟でのトラップによる個体調査などが望まれる。

(3) 病気や害虫による影響

腐敗病・鉄欠乏症などの病気やボウフラ・アブラムシなどによる害虫被害も考えられるため、まだハスの残る御手洗潟や上潟でそれらの被害調査を行う他、土壌成分の調査なども行い、微量成分の不足等が無いかを調査する。

(4) 生活サイクルとの関係

ハスは地下茎で広がり栄養繁殖も行う植物であるため、生活サイクルによる繁茂と衰退が見られる。衰退との因果関係を調査するのは難しいが、過去のデータ等と比較し、生育の周期性を調査する他、今後の継続的な記録が望まれる。

3 今後の対応

(1) 原因の特定と対応

原因が特定された場合、その原因に対する対応を行う。

(2) ハス復活プロジェクトの立ち上げ

先日行われた「佐潟の将来を考えるワークショップ」でも、「ハスのある佐潟」を望む声が多数聞かれた。今後の方針を定めていくのが先決だが、佐潟に親しんでいくためにも、佐潟のハス栽培を通して佐潟の環境を考えていくのも良いのではないかと考える。